

# 年頭所感

安藤 狂四郎

茲に、昭和十四年の新春を迎へ、誌友諸君と共に、聖壽の萬歳と皇運の隆昌を慶祝し奉ることを得るは、私の最も欣幸とするところである。

一昨年七月、北支蘆溝橋畔に於て暴戾不遜の支那軍によつて放たれた一發の銃聲は、つひに日支兩國間の全面的衝突にまで發展し、我國としては、抗日容共を固執する國民政府並にその統率下にある軍隊を徹底的に膺懲すべく、海陸空に亘つて、歩武堂々、大軍を進めたのであるが、國都南京は一昨年十二月既に陥落し、抗日の牙城たりし漢口、廣東亦昨年十月相繼いで攻略せられ、廣大なる支那本部の大半は既に我軍の占據するところとなつたのである。我々は、筆紙に盡し得ざる、あらゆる惡條件を克服して、寡兵克く、赫々無双の武勳を樹立したる皇軍將士の勞苦を思ひ、年頭改めて感謝の至誠を捧ぐると共に、武運長久を祈念せざるを得ないのである。

かくて、支那事變も、第三の段階に入つた譯であるが、頑迷なる國民政府は奥地に逃竄しつゝも未だに迷夢醒めず、皇軍の占據地域内に於ては遊撃戰術をとりて後方攪亂を企圖すると共に、ソ聯、英佛等の諸國より援助を求むるにこれ日も足らぬ有様である。

然しながら、我國としては、彼の依然たる容共政策に對しては、防共樞軸の鐵壁陣を以てし、長期抗戰に對しては、正々堂々長期建設の體制確立を以て酬いるの外はないのである。従つて、十一月三日の佳節を卜して、東亞の新事態に即應して新なる秩序を建設し、以て日滿支の提携協調を基幹とする東亞永遠の平和確立に邁進するの大信念を中外に闡明することとなつたのである。而して、この國策に基いて、新に中央に興亞院、現地に連絡部の設置を見るに至つたことも、諸君の既に御承知の通りである。

皇軍の猛撃に遭つて、支那軍の殲滅せられ、或は既に撤退せる地域に於ては、土地の事情により、遲速の相違こそあれ、いづれも、治安維持會の成立を見、その悉くが國民政府の桎梏より離脱して防共親日政權誕生の礎石となりつゝあるの實情は、同政權の存立が全民衆の興望と全く乖離せる何よりの證據であつて、我々の欣快に堪へないところである。而して、蒙疆に於ては、既に一昨年察南自治政府、晋北自治政府、蒙古聯盟の成立を見、昨年十一月には三者合同して蒙疆聯合委員會を結成して、王道樂土の建設に邁進し、支那本部に於ては、北支に中華民國臨時政府、中支に中華民國維新政府の組織を見、兩

者いづれも、我國の援助協力によつて著々體制を整備し、基礎を強化して、安居樂業の新天地を創造しつゝあるのであるが、何分にも支那軍の撤退の際には、都市を焼拂ひ物資を滅盡するを常とするのであるから、支那國民の受けたる精神的並に物質的損害は極めて甚大且つ深刻なるものがあるのである。従つて、これが復舊乃至復興はなか／＼の難事業であると云はねばならない。

○ しかも、元來支那本部は早くより開けたる地方であり、儒教の如き精神文化は我國の國民道德に少からぬ影響を及ぼした程であるけれども、政治の方面に於ては治亂興亡終始常なく、爲政者は唯外敵の侵寇を防禦するに奔命これ疲るゝか、或は國民より苛斂誅求するにこれ日も足らず、眞に國民をして鼓腹擊壤以て泰平を謳歌せしむるの善政を布いた時代は史上餘りなかつたのである。従つて、廣大なる國土を統治するの要訣は、何よりも先づ、水を治め道を開いて國民生活の安定と物資々源の開發に資するに在るにも拘らず、交通土木の施設に至つては、必ずしも堯舜の時代より相去ること遠からず、黄河を治むる者はよく支那を治むるの金言は直ちに現代の支那に通用するの實情なのである。

○ 茲を以てさきに昭和七年滿洲國成立するや、我が内地の土木界より多數の先輩僉友迎へられて、民政部、交通部、國都建設局、國道局に入り、新興國家の交通土木行政に多大の貢獻をなしつゝあるは諸君の御承知の通りであるが、更に、昨年、中華民國臨時政府に建設總署設置せらるゝや、下關土木出張所長

たりし三浦君以下百名に垂んとする人材が技監以下夫々の要職に就任し、又上海の港灣計畫樹立のためには仙臺土木出張所長たりし田淵君以下の俊英を送り、尙蒙疆聯合委員會にも多數の良能が迎へられて治安其の他我々の想像も及ばざる幾多の惡條件と戦ひつゝ、日夜營々安居樂業の新天地建設のために精進努力して居らるゝのである。

我々はこれらの先輩僚友に對して、衷心より感謝の至情を捧ぐる次第であるが、治安工作の進展に伴ひ、更に多數の人士を要望せらるゝ時代が來るべきを信じて疑はないのである。土木界に職を奉ぜらるゝ諸君は、十分滿支の事情を研究し、以て他日の發展に備へられんことを切望する次第である。

○  
翻つて、内地の土木行政界を展望するに、昨年は、阪神地方、關東地方其の他各地の風水害頻發し、殊に、阪神地方に於けるそれはまことに未曾有の慘害を招來したのであるから、これらに對しては速に萬全の對策を講じて銃後國民生活の安定竝に、物資々源の保全を圖らなければならぬが、尙道路港灣等の交通運輸施設に於ても十分時局の要望を充足するに遺憾なきを期したいと思ふのである。

○  
凡そ、現下の非常時局に於て、重要道路の擔當する職司は極めて重大である。近時異常なる發達を遂げつゝある航空事業の發達に對應して飛行場の新設せらるゝもの枚擧に遑あらず、又當面の軍需品充足或は日滿支一體の經濟プロツク結成のためにする重工業、鑛業その他生産力の飛躍的發展に

對應し、道路施設の擴充整備を必要とすべき部面は頗る多いのである。從來動もすれば、鐵道の運輸力を過信して道路の開拓を忽諾に附したる嫌なしとしないのであるが、元來鐵道と道路には夫々分に應じて擔當すべき分野があるのみならず、航空機による爆撃の可能性を考慮し、且つ最近に於ける自動車の性能の進歩に徴するときは、遠距離高速交通機關としての道路の意義は極めて高く評價されなければならぬのである。これらの點に立脚して、我が内地の道路施設の現状を考察するとき、遺憾の點が頗る多いのである。

更に、政府部内關係方面に於ては、自動車増産計畫の樹立遂行竝に人造石油製造事業の獎勵助成に努めて居らるゝのであるが、我國に於ける自動車の現在數竝にガソリン生産の實情に徴し、時局柄まことに緊切の時務なることには毛頭異存はないのである。然しながら、自動車は道路上を走行するのであり、ガソリンは道路上に於て自動車の消費する數量がその全消費額中、殆ど大部分を占めて居るのであるから、道路の全面的改良鋪裝を併進するに非ざれば、到底畫龍點睛を缺くの憾なきを得ないのである。道路の改良鋪裝により、自動車の使用年限が著しく延長せらるゝことは自動車使用者の均しく認むるところであり、鋪裝道路に於ては砂利道に比しガソリン消費量二割前後の節約をなし得ることも、各地の實驗例に於て明かなる事實である。論じて茲に至れば、世上往々行はるゝ時局下に於ける道路改良事業を目して不急の閑事業となすの思想の如きは全く認識不足であると云はざるを得ないのである。

○ 盟邦ナチスに於ては既に一九三三年より在來の一般道路の外に更に自動車専用道路七千杆の建設を計畫し、現在既に二千餘杆の完成を見て一般自動車の使用に供し、又最近に於ける家用自動車の増加も極めて顯著なるものがある由であり、又新興滿洲國に於てもこのアウトバーンに倣ひ、ハルビン大連間一千杆の自動車道路を計畫し、明年度より著手するやに聞いて居るのである。勿論我國とは種々の點に於て國情の相違があり、殊に我國は現在有史以來未曾有の事變下に在るのであるから財政方面に於て幾多の難關がある譯ではあるけれども、道路の遠距離高速交通機關としての將來性並に國防上の重要性より考察するときは、盟邦二國の事例に徴するも、今後我々のなすべき仕事は極めて多いと云はなければならぬ。

○ 年頭、些か所懐の一端を披瀝して、諸君の御健闘を期待する次第である。